

奈良国立文化財研究所概要



1990

目 次

沿革付年表	2
組織	3
機構	3
定員	3
役職職員	4
予算	4
歳出予算	4
科学研究費補助金	4
施設	5
土地及び建物	5
事業	7
建造物研究室	7
歴史研究室	7
平城宮跡発掘調査部	8
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	9
飛鳥資料館	10
埋蔵文化財センター	11
普及活動	12
公開講演会	12
現地説明会	12
刊行物	12
蔵書及び資料	14

沿革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で発足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

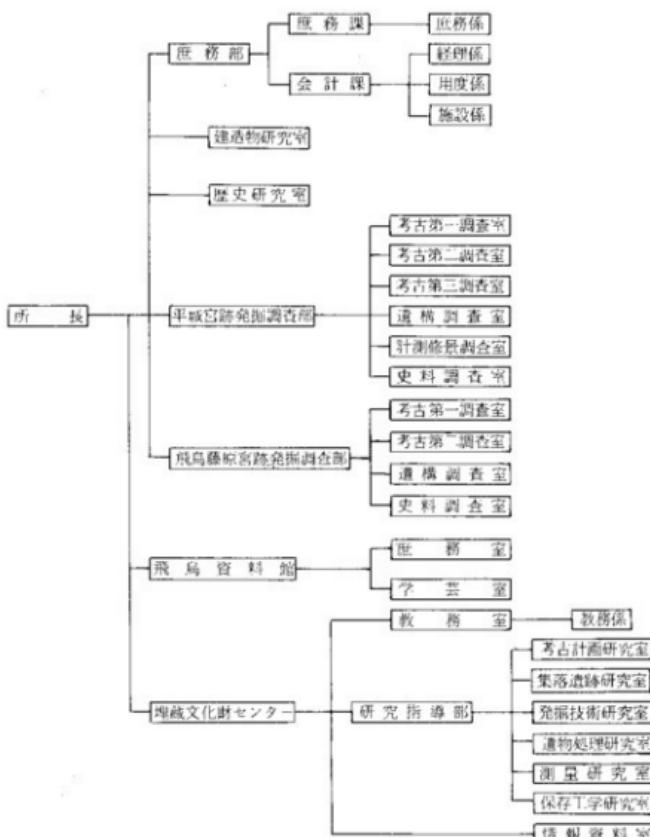
年表

昭和26. 10. 6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会発足
27. 4. 1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29. 7. 1	奈良國立文化財研究所と改称
35. 10. 15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36. 9. 16	庶務室は庶務課となる。
38. 4. 10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39. 4. 1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40. 4. 1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43. 6. 15	文化庁発足、その附属機関となる。
45. 4. 15	平城宮跡資料館開館
45. 4. 17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48. 4. 12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49. 4. 11	庶務部（庶務課・会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50. 3. 15	飛鳥資料館開館
50. 4. 2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51. 5. 10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
53. 4. 5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
53. 10. 1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55. 4. 5	美術工芸研究室を奈良國立博物館（仮称美術資料研究センター）に移換
55. 4. 26	庁舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合
58. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設
63. 8. 10	飛鳥藤原宮跡発掘調査部庁舎新設

組 織

平成2年4月1日現在

機 構



定 員

区分	指定職	行政職(一)	行政職(二)	研究職	計
人員	1	22	3	60	86

役職員

所長	鈴木嘉吉							
庶務部	部長 小菅康男	庶務課	長	中松	川岡	良	和進	
建造物研究室		会計	長	宮本	本	長二郎		
歴史研究室		室	長	城	村	宏		
平成宮跡 発掘調査部	部長 町田 章	考古古道構造 第一二三調査 史料調査室	室長 調査室長 事務取扱	金毛山上高町	子光城野瀬田	裕俊信邦要	之彦二一章	
飛鳥藤原宮跡 発掘調査部	部長 牛川喜幸	考古古道構造 第二三調査 遺史	室長 調査室長 事務取扱	黒大山川	崎輪本誠	忠俊	直潔尚一	
飛鳥資料館	館長 鈴木嘉吉	庶務芸術	室長	馬猪	本熊	本熊	兼治勝	
埋蔵文化財 センター	センター長 田中 琢	教情報資料室	室長	登伊	り東	伴太	哉作	
研究指導部	部長 佐原 真	考古計画 集落遺跡 発掘技術 測量	研究室長 研究室長 研究室長 保存工学	松工西沢木 田全佐	沢葉村田全 正善	正敬	生通康昭 貞真	

予算

歳出予算

(単位 千円)

区分	63年度	元年度	2年度(当初)
人件費	560,682	575,793	591,513
運営費	798,704	759,858	811,179
施設費	309,291	325,911	345,055
臨時の経費(備附引合)	69,858	99,832	81,988
計	1,734,535	1,761,394	1,829,735

科学研究費補助金

() 書は件数(単位 千円)

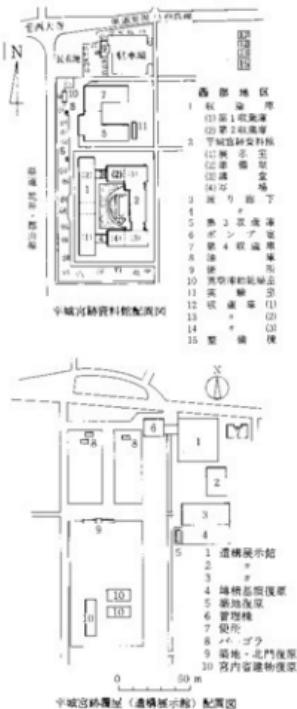
区分	62年度	63年度	元年度
特別推進研究(2)	(1) 8,000	(1) 8,000	(1) 3,000
重点領域研究(1)			(1) 1,500
〃 (2)			(1) 1,200
総合研究(A)			(1) 13,800
一般研究(A)	(1) 600	(1) 700	(1) 5,000
〃 (B)	(2) 2,200	(2) 3,700	(1) 1,000
〃 (C)	(3) 3,100	(5) 3,900	(5) 4,300
奨励研究(A)	(2) 1,700	(3) 2,500	(5) 4,100
試験研究(1)	(1) 6,790	(1) 3,400	(3) 26,200
研究成果公開促進費	(1) 6,790	(1) 6,790	(1) 6,930
計	90 22,390	10 28,990	20 67,030

施 設

土地及び建物

平成 2 年 4 月 1 日現在

名 称	土地面積	建 物 面 積		備 考
		建面積	延面積	
本 館	8,860 m ²	2,720 m ²	6,721 m ²	
平城宮跡	1,081,616	9,193	12,137	土地……文部省所管 建物……平城宮跡資料館、復原等
藤原宮跡	326,321	36	36	土地……文部省所管
藤原発掘調査部	20,515	4,489	6,426	
飛鳥資料館	17,092	1,465	2,682	
旧米谷家住宅	298	190	213	民有地借上 重要文化財
宿舎 飛鳥資料館 郡山	1,654 1,343 311	334 225 109	378 225 153	土地 231 m ² 大蔵省所管を含む
合 計	1,456,356	18,427	28,593	

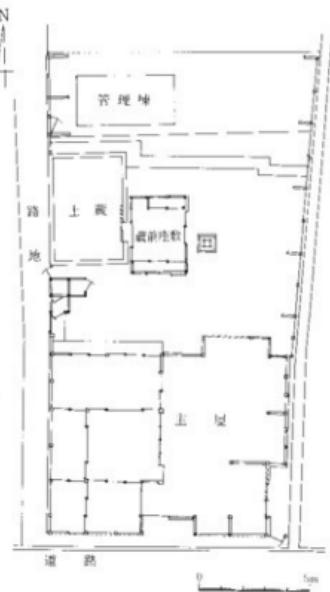




飛鳥藤原宮跡発掘調査部配置図



飛鳥資料館配置図



旧米谷家住宅配置図

事 業

建造物研究室

社寺建築・庭園・民家及び伝統的建造物群に関する調査研究とその結果の公表を行う。



建 造 物 の 調 査

歴史研究室

考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。



古 文 書 等 の 調 査

平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年のあいだ都として栄えた平城宮跡等の発掘や調査研究を行うとともに、出土した木器・金属器・土器・瓦・木簡等の遺物や遺構の保存整理、遺構の計測・修景、史料の収集、及びそれらの調査研究とその結果の公表を行う。

さらに発掘調査が終わった地域について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構・遺物等を展示して一般に公開している。



平城宮跡全景



朱雀門



案内広場

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥・白鳳文化が開花した時代の中心的地域である飛鳥地方及び藤原宮跡における宮殿その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



飛鳥藤原宮跡発掘調査部庁舎全景



山田寺東回廊



藤原宮跡大極殿周辺

飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全貌



石人像（重要文化財）

飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

入館者数

（単位：人）

区分		年 度		平成元年度	
		昭和62年度	昭和63年度		
有料観覧	普通観覧	一般	48,401	43,394	
		高・大学生	12,905	9,395	
		小・中学生	15,863	11,339	
	団体観覧	一般	22,797	17,677	
		高・大学生	32,858	29,213	
		小・中学生	81,508	56,829	
計			214,332	167,847	
無料観覧			12,473	9,928	
合 計			226,805	177,775	
				200,716	

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関する調査研究及び関連技術の開発ならびにその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、平成元年度までの受講者累計は3,288名である。

区分	課程	区分	課程
一般研修	一般課程	専門研修	埋蔵文化財情報課程
専門研修	土師器・須恵器調査課程	"	縄文土器調査課程
"	保存科学課程	"	弥生土器調査課程
"	遺跡探査過程	"	生物環境課程
"	遺跡測量課程	特別研修	埋蔵文化財基礎課程
"	遺跡保存整備過程	"	城館遺跡調査課程
"	遺跡環境課程		



研修風景



画像処理システム　写真・実測図・拓本などの
画像を、高密度ディジタル化して光ディスクに収納する。



P.E.G含浸装置　ポリエチレングリコールを
使用し、木材、木炭等を水
久保存するための処理装置



解析写真測量システム　解析図化機WILD AC-1
を使用して、デジタル・マッピングなどを行う。

普及活動

(1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演題	講演回数	演題
第62回 (63. 5.21)	「長屋王邸宅跡を掘る」 平城京の調査 長屋王邸宅跡の変遷 長屋王邸と「長屋皇宮」木簡	第64回 (1.5. 20)	平城京発掘30年—その光と影— 平城京再現—研究成果と課題—
第63回 (63.11.12)	平城宮朱雀門の復元 平安貴族は瓦葺邸宅に住んでいなかった	第65回 (1.11. 18)	犬、狼、馬—古代人の生活と動物— 馬をめぐる古代のまつり

(2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

説明会年月日	発掘調査場所	説明会年月日	発掘調査場所
1. 2. 4	平城宮跡第197次(平城京左京二条二坊)	1. 9. 2	平城宮跡第204次(平城京左京二条二坊五坪)
3. 18	平城宮跡第195次南、197. 次西 (平城京左京三条二坊一坪)	9. 16	平城宮跡第203次(朝堂院東三堂)
4. 15	頭塔	9. 30	奥山・久米寺金光明
5. 6	平城宮跡第198次-B(平城京左京二条二坊五坪)	11. 18	平城宮跡第209次(西隆寺)
7. 1	平城宮跡第202次-5次(平城京左京三条二坊六坪)	12. 2	山田寺跡第7次
8. 19	薬師寺 東面回廊	12. 16	平城宮跡第206次(兵部省)
		2. 3. 17	平城宮跡第205・206次(兵部省)

(3) 刊行物

イ、学報

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏師蓮慶の研究	1954	第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅷ
	第2冊 修学院離宮の復原的研究		第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
1955	第3冊 文化史論叢		第28冊 研究論集Ⅸ
1956	第4冊 奈良時代僧房の研究		第29冊 木曾会良井・町並調査報告
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	1976	第30冊 五条一町並調査報告—
1958	第6冊 中世庭園文化史	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査の記録Ⅱ
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告		第32冊 研究論集Ⅹ
1959	第8冊 文化史論叢Ⅱ		第33冊 イタリア中部の山岳集落における民家調査報告
	第9冊 川原寺発掘調査報告		第34冊 平城宮発掘調査報告Ⅸ
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	1978	第35冊 研究論集Ⅴ
1961	第11冊 院の御所と御室—院家建築の研究—		第36冊 平城宮整備調査報告 I
1962	巧匠安阿弥陀弘法	1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第13冊 寝殿造系庭園の立地的考察		第38冊 研究論集Ⅵ
	第14冊 庭招提寺藏「レース」と「金龜舍利塔」に関する研究	1980	第39冊 平城宮発掘調査報告 X
	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ	1981	第40冊 平城宮発掘調査報告 XI
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ	1984	第41冊 研究論集Ⅶ
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ		第42冊 平城宮発掘調査報告 XII
	第18冊 小畠遠州の作事		第43冊 日本における近世民家(農家)の系統的発展
1967	第19冊 麻原氏の氏寺とその院家		第44冊 平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告
1969	第20冊 名物製の成立	1985	第45冊 薬師寺発掘調査報告
1971	第21冊 研究論集 I	1986	第46冊 平城京右京八条十三、十四坪発掘調査報告
1973	第22冊 研究論集 II	1988	第47冊 研究論集Ⅸ
1974	第23冊 平城宮発掘調査報告 VI		
	第24冊 高山一町並調査報告—		
1975	第25冊 平城京左京三条二坊		

口、史料

年度	名 称	年度	名 称
1954 第1冊	南無阿弥陀仏作普集(複製)	1977 第17冊	平城宮木簡三 図版・解説
1955 第2冊	西大寺収蔵伝記集成	第18冊	藤原宮木簡二 図版・解説
1963 第3冊	仁和寺史料 寺誌編一	第19冊	東大寺文書目録第二卷
1964 第4冊	俊乗坊重源史料集成	第20冊	日本美術院影刻等修理記録Ⅷ
1966 第5冊	平城宮木簡一 図版	第21冊	東大寺文書目録第三卷
1967 第6冊	仁和寺史料 寺誌編二	第22冊	七大寺巡礼私記
1969 第7冊	平城宮木簡一 解説(別冊)	第23冊	東大寺文書目録第五卷
1970 第7冊	唐招提寺史料第一	第24冊	平城宮出土墨書き器集成 I
1974 第8冊	平城宮木簡二 図版・解説	第25冊	東大寺文書目録第六卷
第9冊	日本美術院影刻等修理記録I	第26冊	木器集成(叢録) - 近畿古代篇一
1975 第10冊	日本美術院影刻等修理記録II	第27冊	平城宮木簡四 図版・解説
1976 第11冊	日本美術院影刻等修理記録III	第28冊	興福寺典籍文書目録第一卷
1977 第12冊	藤原宮木簡一 図版・解説	第29冊	山内清男考古資料 I
第13冊	日本美術院影刻等修理記録IV	第30冊	平城宮出土墨書き器集成 II
1978 第14冊	日本美術院影刻等修理記録V	第31冊	山内清男考古資料 II
第15冊	東大寺文書目録第一卷	第32冊	山内清男考古資料 2
1979 第16冊	日本美術院影刻等修理記録VI		

ハ、飛鳥資料館図録

年度	名 称	年度	名 称
1976 第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏	1984 第12冊	小健策の世界 - 塚輪から瓦塔まで -
第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	第13冊	藤原宮 半世紀にわたる調査と研究 -
1977 第3冊	日本古代の墓誌	1985 第14冊	日本と韓国との塑像
1978 第4冊	日本古代の墓誌 跡文篇	第15冊	飛鳥の石造物
第5冊	古代の誕生仏	1986 第16冊	萬葉乃衣食住
1979 第6冊	飛鳥時代の古墳 - 高松塚とその周辺 -	第17冊	壬申の乱
1980 第7冊	日本古代の跡尾	第18冊	古墳を科学する
1981 第8冊	山田寺歴史	1988 第19冊	聖德太子の世界
1982 第9冊	高松塚拾年	第20冊	聖徳太子の世界
1983 第10冊	粟米人の寺 - 檜隈寺と坂田寺 -	第21冊	仏舍利埋納
第11冊	飛鳥の水時計	1989 第22冊	飛天

ニ、基準資料

年度	名 称	年度	名 称
1973 第1冊	瓦編1 解説	1978 第6冊	瓦編6
第2冊	瓦編2 解説	1979 第7冊	瓦編7
1975 第3冊	瓦編3	1980 第8冊	瓦編8
1976 第4冊	瓦編4	1983 第9冊	瓦編9
1977 第5冊	瓦編5		

木、地図 (大縮尺図、縮尺1:1,000、航空写真より図化)

区 分	図化面数	図 化	地 域	
平 城 京 地 域	77	押熊、桑原、中山、外山、盾列、淡谷、赤井谷、敷島、秋篠寺、山陵、西畠、歌姬、コナベ、ウワナベ、黒髪山、佐保山、船着寺、疋田、野神、西大寺、平城宮(-)、法華寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺(-)、宝来、菅原、尼ヶ辻、北新、田村、藏ノ町、三条、興福寺、春日野、春日神社(-)、平松、唐招提寺、六条、柏木、八島山、大安寺(-)、京終、元興寺、紀寺、新薬師寺、大池、薬師寺、西ノ京、合、八条、神殿、財塚、北古市、鹿野園(-)、大藏冠、西市、観音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、登坂、横井、古市、南郡山、郡山、野垣下、下三橋、上三橋、北之庄、今市、帯解	第6冊 瓦編6	
下 ツ 道 地 域	47	大師、若槻、美濃庄、井戸野、池田、藏之庄、番菜、中城、免志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二階堂、西嘉幡、嘉幡、庵治、満幡、石見、唐古、八尾、鍵、田原本、阪手、秦之庄、南阪手、多、笠延、新UJ、西垣内、上品寺、新實、鶴田部、鶴田部北方、穴間、長楽、保田、唐院、沢、大野、小柳、大場、乙木(-)、佐保庄、竹之内	第7冊 瓦編7	
飛 鳥 藤 原 地 域	50	木原、耳成山、常磐、西之宮、大福、今井(-)、小房、鴨公、高殿北郎、膳夫、吉備、椎本、巣鴨山、大久保、木曽、飛騨、高殿、香久山、池之内、池尻、生田、久米寺、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、鳥屋、益池田、見廻、和田、農涌、飛鳥寺、八鈞、越、野口、立部、橘寺、同寺(-)、真弓、松前、上平田、祝戸、坂田、觀寳寺、栗原、大根田、東常門	第8冊 瓦編8	
計	174		第9冊 瓦編9	

その他、編集図(縮尺1:2,000) 平城宮跡、藤原宮跡、藤原京(-)、五条野、飛鳥、若槻庄、池田莊、小東莊、乙木莊

へ、年報

1958~1989毎年1冊 計32冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975~1989毎年数冊 計68冊

蔵書及び資料

藏書

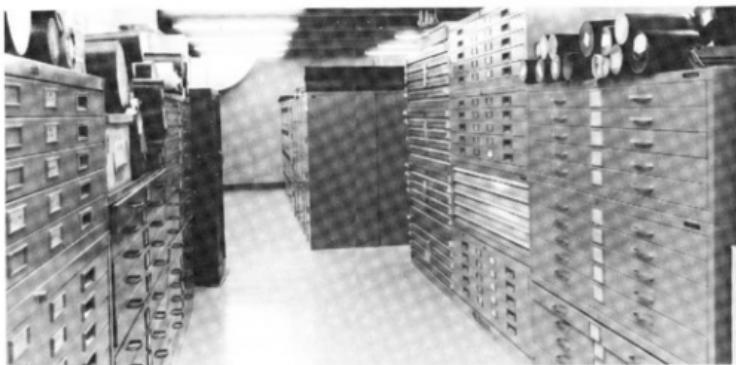
114,374冊(平成2年3月31日現在)

区分	種別	購入	寄贈	計
元年度	和漢書 洋書	1,574 114	4,362 317	5,936 431
累計	和漢書 洋書	46,343 5,482	61,233 1,316	107,576 6,798

資料

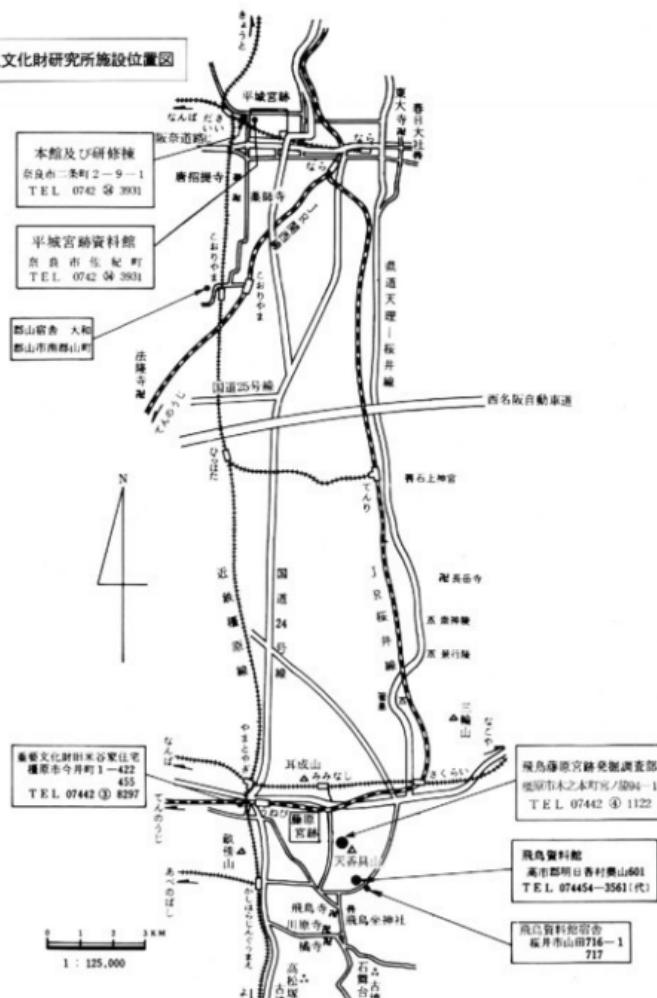
401,609点(平成2年3月31日現在)

区分	キヤビネ	スライド	ライカ	プロニー	ミニコピー	その他	計
元年度	4,377	5,956	2,294	3,740	5	32	16,404
累計	122,873	124,573	83,944	59,542	2,292	8,385	401,609



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガなどを保管

奈良国立文化財研究所施設位置図



飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西暦	年号	事項	西暦	年号	事項
538		仏教伝来	711	4	大官大寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	靈龜 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇豐浦宮に即位	718	養老 2	薬師寺・元興寺を移す
601	9	聖德太子斑鳩宮を造る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
603	11	小聖田宮に遷る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	恭仁宮に遷る。平城宮大極殿等を運ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に遷る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	天平 4 持宝	東大寺大仏開眼供養
639	11	百濟大寺を造り始める	755	7	平城宮改作
640	12	百濟宮に遷る	756	8	聖武天皇77忌に造品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	皇極 1	小聖田宮に遷る	759	天平 3 宝字	唐招提寺を造る。平城宮東朝集殿を唐招提寺に施入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	舞波長柄豐崎宮に遷る			
653	白雉 4	中大兄皇子、皇極等と飛鳥河辺行宮に遷る	765	天平 1 神護	西大寺を造る
655	齊明天 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767	神護 1 景雲	西隆寺を造る。東院玉殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
667	天智 6	近江大津宮に遷る			
672	大武 1	飛鳥淨御原宮に遷る	794	13	平安京に遷る
680	9	薬師寺を造り始める。橘寺尼房焼失	809	大同 4	平城上皇、平城宮に遷る
691	持統 5	藤原京を鎮祭する			
694	8	藤原宮に遷る	824	天長 1	平城上皇薨去
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

(裏表紙写真) 鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天平年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日 平成2年5月30日
発行 奈良国立文化財研究所

